IKE FUTURE

—様々な未来が、池袋につながる—

2019年から2021年にかけて、豊島区は大きく変貌した。豊島区は、破綻寸前の財政危機や2度で唯一「消滅可能性都市」と指摘されるなか逆境の中でも、ぶれることなく「文化によるまちづくり」を推進してきた。産官学部の「オールとしま」で、ピンチをチャンスと捉えて知恵を絞り、情熱をもって取り組んできた成果が、日本代表としての「東アジア文化都市2019豊島」の開催、そして2020年の「SDGs未来都市」と「自治体SDGsモデル事業」のダブル選定に結びついた。

現段階では、国際的なアートカルチャー都市を目指す豊島区にとって最も重要なことは、芸術文化の魅力で企業や人を惹きつけるのみならず、芸術を創造し、全員を芸術文化に参加するようにして、豊島区自体が芸術の起点となることだと考えている。

1.文化の拠点と原点である建築

豊島区は、持続可能な開発の原則に従って、芸術と文化の国際都市を創造している。例えば、東京文化芸術劇場、Hareza池袋などである。だが、豊島区の国際的な知名度を上げ、より多くのアーティストや地元の人、外国人に豊島区に来てもらうためには、芸術文化の紹介や舞台作りに比べて、文化の輸出や創造が足りないのではないかと。この建築は、豊島区の芸術文化の原点となり、他の機能と融合することで、アジア、さらには世界に知られる建築を目指す。

2.CONCEPT（IKE FUTUREで図ること）

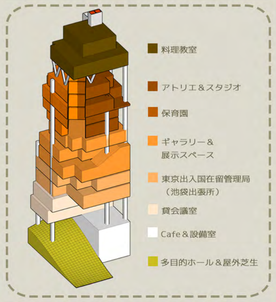
1. 多彩な都市機能の高度な集積により、新たなにぎわいと活力を生み出す建築。2. 帰宅困難者対策を含む総合的な災害対策を推進し、安全性を高める空間。3. 人に優しく、安全で快適な空間を備えた、居心地が良く歩きたくなる都市空間づくり。4. 環境負荷の低減と高い安全性を備える建築。5. 東京2021オリンピック、パラリンピックの開催とその先を見据え、国内外の人々を惹きつける文化の創造を支える建築。6. 民間活力を生かした公民連携により、池袋の機能を強化する建築。

3.PROGRAM

外国人：豊島区における20代人口の4人に1人が外国人となっている。外国人にとって最も重要なことは、在留資格の更新である。外国人率の高い豊島区には出入国管理局があれば、外国人に豊島区の文化や芸術の雰囲気を感じさせ、豊島区を知ってもらい、定住してもらうことがより簡単になるでしょう。

	総数（人）	外国人（%）
東京都	13,515,271	2.8
東京都特別区	9,272,740	3.4
豊島区	291,167	7.7
「池袋」駅周辺	103,818	11.0

子供と女性：定住率や合計特殊出生率を高めていくためには、特に20-39歳までの女性に焦点をあてた施策を展開していくことが必要である。保育園をアーティストのスタジオと隣りフロアに設置することで、子どもたちは芸術的・文化的な良い雰囲気を体験し、それぞれの興味を育むことができる。屋上には子供用の遊び場があり、子供たちは自然を間近に感じ、空への距離感を体感することができる。保護者にとっては、最上階の料理教室が趣味の場となり、子供と離れている時に感じる不安を取り除いてくれる。



アーティスト＆デザイナー：日本の推進力の一翼を担う国際アート・カルチャー都市の豊島区がが誇るアート・カルチャーの魅力を、世界に向けて発信する。池袋駅東口の便利な場所に、アーティストやデザイナーのためのスタジオを提供する、豊島区の新しいアート＆カルチャーの拠点です。芸術や文化の原点として、芸術を直接、間近で体験することができ、企業とアーティストとのコラボレーションも促進される。

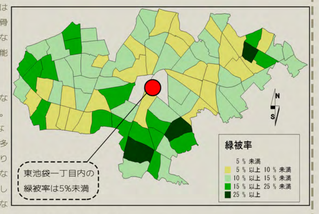
ギャラリー＆展示：また、アートスタジオの直下にギャラリーを設置することで、芸術や文化の振興を促進している。アーティストにとっては、近くで展示することで、作品の移動などの時間を無駄にしないようにする。見る者にとっては、作品を間近で見ることができるだけでなく、アーティスト本人と間近でコミュニケーションをとることができ、芸術や文化の総合的な理解を深めることができる。企業にとっては、ギャラリーを通じて作家の作品をよく知り、作家とコラボすることができる。

みどり

池袋副都心の再生方針により、個別のみどりの果たす機能には限界があるが、庭先やベランダなどの身近なみどり、都市の骨格となる幹線道路の街路樹、学校、豊園など拠点となる大きなみどりが結ばれ連続性が生まれることで、みどりの果たす機能がより発揮されていくことができる。

防災

東日本大震災により大量発生した帰宅困難者により、池袋駅などの構内、地下通路、駅前広場などに多くの人々が滞留した。豊島区内では、震度5強を記録し、人的被害はなく、大規模な被害は見られなかったが、震災当日は、池袋駅を中心として多くの帰宅困難者が発生した。帰宅困難者への対応を改めて振り返ると、地震に伴う区内の状況に関する一時滞在施設の確保などについて、対応や想定が明確になっていない部分も多く残しており、結果として円滑な初動対応に結び付けることができなかった。



外出者と帰宅困難者

（出典　内閣府資料）

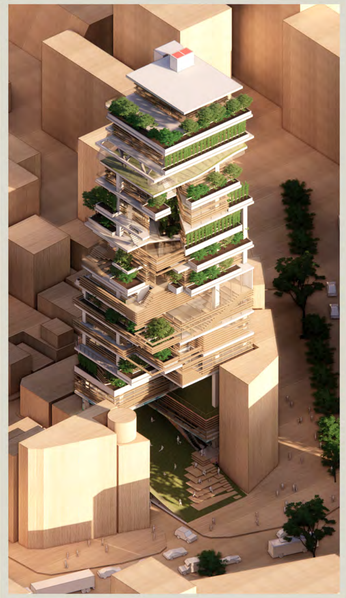
発災当日の池袋駅周辺の状況

（地震直後の池袋駅構内）

（池袋西口の公衆電話の列）

屋外芝生＆多目的ホール：1階にある芝生や多目的ホールは、一般人に自分らしく過ごせる場所を提供している。平日は、芝生をカフェの屋外部分として利用でき、池袋を行き交う人々の憩いの場である。環境問題に対しては、ヒートアイランド現象に代表される都市の熱環境の変化は、熱中症など健康にも深刻な問題を引き起こしている。みどりを増やすことで、緑陰の形成や植物の蒸発散作用によって低温域が形成されるなどの熱環境の改善が期待される。また、万が一地震などの自然災害にあった場合、帰宅困難者のためにテントなどの施設を用意することで、池袋駅周辺の滞留者数を緩和することを目指す（夏と秋）。

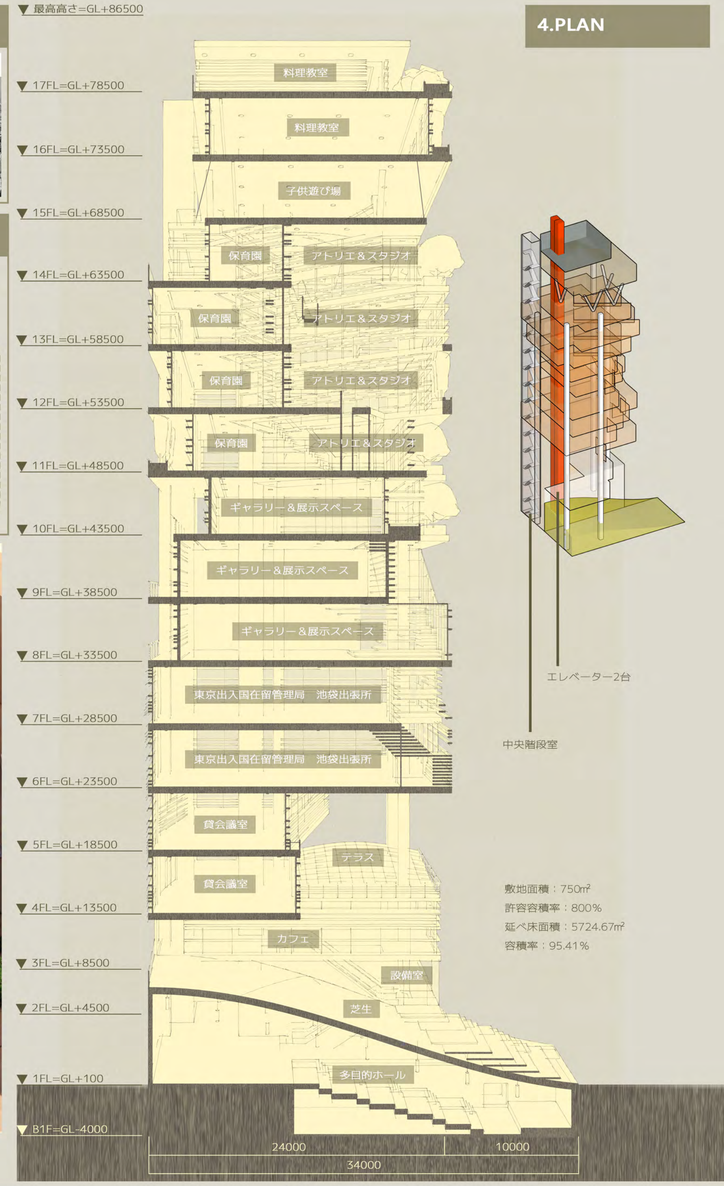
多目的ホールは、シェア、講座、室内での休憩、小規模なパフォーマンス、イベントなど、人々が共有するパブリックスペースとして機能する（賛利目的の場合は賃料が発生する）。自然災害時には、約60名の帰宅困難者に一時的宿泊施設を提供することが可能である（春と冬）。



池袋駅の東側と西側を結ぶガード下の歩行者トンネル「WE ROAD」のリニューアル公開制作の基本コンセプトは「明るい・きれい・女性に安心・快適性」で、デザインは「色」に立脚した表現活動をしている美術作家の櫻田志保さんが担当した。

「IKE FUTURE」も櫻田志保さんとは引き続き、芝生の壁や天井部分のペインティングアートを担当させていただきたいと思っている。「蘇もがき役になれる」街に、新たな彩りの活力を生み出す。

4.PLAN

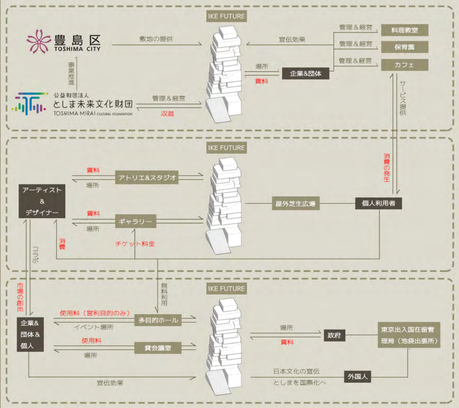


敷地面積：750㎡
許容容積率：800%
延べ床面積：5724.67㎡
容積率：95.41%

5 .PROFIT MODELS

IKE FUTUREで区、政府・民間・企業の四位一体の利益実現へ

持続可能な経済モデルの実現を可能へ



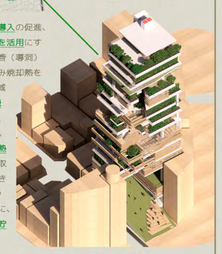
IKE FUTUREは、公益財団法人としま未来文化財団が管理・運営を行っている。民間の企業や団体、アーティスト、政府などとの連携により、芸術文化の舞台を生み出すだけでなく、企業にも消費市場を提供している。このようなサイクルにより、持続可能な経済モデルの実現が可能。さらに豊島区の芸術文化を振興しつつ、区の財政収入を増やす。「豊島区立芸術文化劇場」「東京建物 Brillia HALL」や「としま区民センター」、「池袋西口公園野外劇場（GLOBAL RING THEATRE）」さらに「豊島区立トキワ荘マンガミュージアム」も加わり、これら施設のウイズコロナの時代での円滑な管理運営の元で、より活発な事業展開が期待される。その事業に向き合いながら、利用者、来場者の安全・安心の確保を基軸としながら、効率的で効果的な施設運営はもとより、魅惑力を増やすとともに、広く区民に楽しんでいただくための魅力的な事業展開を図る。「国際アート・カルチャー都市」「SDGs 未来都市」としての魅力を高め、国際化を推進する。

6.ENVIRONMENT

持続可能な環境システムの構築への配慮

エネルギー効率の高い低炭素型建築へ

太陽光発電や太陽熱など再生可能エネルギー導入の促進、豊島清掃工場の排熱などの未利用エネルギーを活用にする。サブプラントと豊島清掃工場を結ぶ、導管（導洞）を敷設し、カーボンニュートラルとされるごみ焼却熱を活用することを可能にすることで大幅なCO2削減を実現。IKE FUTUREでは緑地や屋上・壁面緑化など都市を冷やすクールスポットを創出し、連続したみどりによる風の通り道を形成する。また、建築物の省エネルギー化による人工排熱の削減など、ヒートアイランド現象の緩和に取り組む。通行人々がみどりの潤いを享受できるよう、屋外芝生広場やIKE FUTUREの壁面や通りに面した箇所での植栽を促進する。さらに、芝生の下に雨水回収パイプを敷設し、雨水を貯水槽に集め、ろかして再利用へ。集められた雨水は、飲水と持続可能な環境目標を達成するために、建物内の用水の一部に使用される予定である。



hlc-0111